

24:44 そしてイエスは言われた。「わたしがまだあなたがたと一緒にいたころ、あなたがたに話したことはこうです。わたしについて、モーセの律法と預言者たちの書と詩篇に書いてあることは、すべて成就しなければなりません。」

24:45 それからイエスは、聖書を悟らせるために彼らの心を開いて、

24:46 こう言われた。「次のように書いてあります。『キリストは苦しみを受け、三日目に死人の中からよみがえり、

24:47 その名によって、罪の赦しを得させる悔い改めが、あらゆる国の人々に宣べ伝えられる。』エルサレムから開始して、

24:48 あなたがたは、これらのことの証人となります。

24:49 見よ。わたしは、わたしの父が約束されたものをあなたがたに送ります。あなたがたは、いと高き所から力を着せられるまでは、都にとどまっていなさい。」

<説教>

本日朗読されました箇所の前のところでは、エルサレムにいた十一弟子とその仲間たちそしてエマオから戻って来たクレオパたち二人、これらの使徒たち弟子たちがいた場所に復活のイエスが現れたので彼らは幽霊だと思っておびえ震え上がってしまったこと(36-37)。それに対してイエスがご自分の手や足をお見せになり、ご自分に肉や骨があることをお示しになったこと(38-39)。それで喜びのあまりまだ信じられず不思議がっている彼らの前でイエスは焼いた魚を食べて見せてくださった場面(40-43)を見ました。

このように、イエスの復活についてまず何度も聞いても信じられず、次に見ても信じられず、とにかくなかなか信じられない弟子たちに対して、イエスはご自分が霊(だけ)でなくからだをもって確かによみがえり、生きていることを示し、彼らが信じられるようにしてこられたのでした。

本日の聖書箇所には、そんな不信仰で、霊的に弱く、目が閉じている弟子たちに改めて教え、彼らをご自分の証人として召し、任命してくださったことが記されています。

「わたしについて、モーセの律法と預言者たちの書と詩篇に書いてあることは、すべて成就しなければなりません」(44 節後半)。これは 27 節のなかで、エマオ途上のクレオパたちに〈モーセやすべての預言者たちから始めて、ご自分について聖書全体に書いてあることを彼らに説き明かされた〉ということと内容的には全く同じです。あの時代の〈聖書〉とは現代の旧約聖書のことだということは何度も申し上げていますが、「律法」、「預言者」、「諸書」(その最初が詩篇)とは、まさに旧約聖書(ヘブル語原典)全体の構成です。44 節前半にある〈わたしがまだあなたがたと一緒にいたころ〉つまり十字架につけられる前に〈あなたがたに話したことば〉とは、例えば 18 章 31 ~ 33 節に次のようにありました。

〈さて、イエスは十二人をそばに呼んで、彼らに話された。「ご覧なさい。わたしたちはエルサレムに上って行きます。人の子について、預言者たちを通して書き記されているすべてのことが実現するのです。人の子は異邦人に引き渡され、彼らに嘲られ、辱められ、唾をかけられます。彼らは人の子をむちで打ってから殺します。しかし、人の子は三日目によみがえります。』と、このようなことを言われたのでしょう。こうしてイエスはご

自分が〈聖書全体〉の中心であられることをクレオパたちを含め、〈十一人とその仲間〉の弟子たちに改めて教えお示しになったのです。

弟子たちの聖書理解が鈍かったことは「ああ、愚かな者たち。心が鈍くて、預言者たちの言ったことすべてを信じられない者たち」(25)とイエスがクレオパたちに言われたことから分かりました。また〈弟子たちには、これらのことが何一つ分からなかった。彼らにはこのことばが隠されていて、話されたことが理解できなかった。〉(18:34)とも書かれていました。ですから弟子たちはイエスの恵みによって、あわれみによって、心が開かれる必要がありました。〈イエスは、聖書を悟らせるために彼らの心を開いて〉(45)くださいました。ヨハネの福音書 20 章 22 節に、復活のイエスの手と脇腹を見て喜んだ弟子たちにイエスが息を吹きかけて「聖霊を受けなさい」と言われたことが書かれています。それが、ルカがここで記した、イエスが〈聖書を悟らせるために彼らの心を開く〉かれたことと大きな関係がある、内容的にはほぼ同じことを言っているのではないかと思います。イエスの御霊なる聖霊の力によらなければ 誰も正しく（聖書を悟）ることができないからです。「しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます。」(ヨハネ 14:26)もイエスは言うておられました。既に、過去に聞き学んだイエスのみことば、聖書のみことばを思い起こし、悟り、信じ、従うことも、またこれから先、未来に聞き学ぶイエスのみことば、聖書のみことばを悟り、信じ、従うことも、ただ聖霊の力によってできることなのです。

〈聖書を悟らせるために彼らの心を開く〉かれたイエスは言われました(46-49)。

「キリストは苦しみを受け、三日目に死人の中からよみがえる」(46)。このことはクレオパたちにも既に、聖書によれば必ずそうなるはずだったとイエスが教えておられたことでした(26)が、イエスは〈十一人とその仲間〉の弟子たちにも、同じように改めて教えられたのです。聖書がイエス・キリストの苦難（十字架の死）と復活（栄光）を証していることを悟ることも聖霊の力によらなければできません。

十字架と復活のキリスト、「イエスの名による罪の赦しを得させる悔い改めが、あらゆる国の人々に宣べ伝えられる」こと、ユダヤ人だけにでなく、異邦人にまでも福音が宣べ伝えられることもまた聖書に既に書いてあるとイエスは言われました。このイエスの教えを聖霊の力によって悟ったペテロは後に異邦人のコルネリスたちに、「預言者たちもみなイエスについて、この方を信じる者はだれでも、その名によって罪の赦しを受けられると、証ししています。」と証しました(使徒 10:43)。なお使徒パウロもまた後に自分が「ユダヤ人にもギリシア人にも、神に対する悔い改めと、私たちの主イエスに対する信仰を証ししてきたのです。」と証しました(使徒 20:21)。このようにユダヤ人だけでなく、異邦人にまでイエスの福音が宣べ伝えられることは旧約聖書からの証言であり、神のみこころなのです。後に聖霊の力によってそう正しく悟ったが故に後に使徒たち、弟子たちはあらゆる困難を耐え忍んでユダヤ人にも異邦人にもイエスの福音を宣べ伝えたのです。

このように、十字架と復活の主イエス・キリストを信じる信仰による罪の赦し、救いの福音の世界大の宣教の命令、使命を、エルサレムにいた使徒たち、弟子たちにイエスがお与えになりました(また、マタイが記しているように、ガリラヤでもお与えになりました)。〈これらのこと〉(48)とは、聖書全体のことでしょう。そしてその中心は十字架の死と復

活の主イエス・キリストです。だから〈わたし（イエス）の証人〉（使徒 1:8）とも〈イエスの復活の証人〉（同 22）とも言われます。

さてそういうわけで、聖書を悟り、イエスの証人としてエルサレムから開始して世界に出て行くには、とにかく聖霊の力が絶対に必要でした。〈わたしの父が約束されたもの〉、〈いと高き所から〉の〈力〉（49）とは聖霊のことです。使徒たちに聖霊が送られることは主イエスの父なる神の約束であり、またイエスご自身の約束ですから、信じて祈り求めるならば必ず送られ、与えられます。

〈十一人とその仲間〉たちは、これまでのイエスの実言葉を聞き、イエスの復活を信じられず、おびえ、取り乱したりしたこと、自分たちが子どもの頃から聞き教えられ、またイエスからも聞き教えられてきた聖書について如何に自分たちが愚かで心鈍く悟っていなかったかを思い知らされ、恥じ入ったことでしょう。しかし同時にそんな自分たちをイエスが見捨てず、イエスの証人として召してくださったことに驚き、恐れ、同時に感謝して、イエスの命令に従い、〈都にとどまってい〉（49）ることにしたに違いありません。